

1 学力の状況と要因分析

(1) 全国学力・学習状況調査結果

平均正答率 (%)		R 3 年度	R 4 年度	R 5 年度
国語	学校	67	75	72
	県	小学校 65 中学校 65	小学校 66 中学校 68	小学校 中学校 69
	全国	小学校 64.7 中学校 64.6	小学校 65.6 中学校 69	小学校 中学校 69.8
算数	学校	60	60	56
	県	小学校 70 中学校 56	小学校 63 中学校 50	小学校 中学校 51
	全国	小学校 70.2 中学校 57.2	小学校 63.2 中学校 51.4	小学校 中学校 51

2 児童生徒質問紙における状況と分析

「国語の授業の内容はよく分かる」という質問に対して約 69%の生徒が「当てはまる、どちらかという当てはまる」と回答している。同様に数学では約 68%の生徒が回答している。また、生徒の興味関心が全国の平均を下回っていることから、興味関心がもてるような授業づくりや、学習のアドバイスを積極的に行っていく必要がある。

3 学校質問紙における状況と分析

教科指導法において、国語と英語で課題がみられたので改善を進めていく。学校運営においては、調査結果をもとに生徒の実態を共有し、意識して取り組む必要がある。また、学校運営協議会を活用し、地域や保護者を巻き込んだ学校づくりを推進していくための方策を探っていく。

4 自校の学力の分析（上記 1, 2, 3 を踏まえて）

国語では、「C 読むこと」の領域は平均をやや大きく上回り、読解能力の高さがうかがえる。一方、知識及び技能の領域では「言葉の特徴や使い方に関する事項」において、前年に比べ相対値が 15 ポイント減少し、語彙の獲得に課題がみられる。

数学では、R5 年度は R4 年度に比べ、記述式、関数で大きく下回る結果となったが、R3 年度と同様の結果が得られた。論理立てて正確に説明する力に課題がある。数学に対する探求心を高めるために、時間の確保と興味を引く課題を設定していく。

5 今年度の取組

「自己指導能力」を育むために、生徒指導的機能を活かした授業づくりについて研究推進委員会を中心に進めている。特に評価方法や個に応じた学習支援について教科部会を短い時間で定期的に関き、お互いの授業力向上に努めている。